

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1)現行の教育課程の改善を図り、新教育課程編成を進める。 (2)本校のミッションと生徒・保護者のニーズを基に、魅力と特色ある学校づくりの推進を図る。 (3)組織的な授業研究を進め、主体的学習習慣を育成する。	(1)新学習指導要領に対応した、新たな教育課程の編成を進める。 (2)「チャレンジする生徒の育成」企画に積極的に取り組み、生徒・学校を活性化させる。 (3)能動的生徒参加型授業に関する研究を組織的に進め、生徒の学習意欲を高める。	(1)新学習指導要領に関する情報を収集し、新たな教育課程の編成を進める。 (2)①「チャレンジする生徒の育成」企画に引き続き取り組む。 ②TOEIC Bridge、勉強合宿、土曜講習などを活用し、生徒の学習意欲を向上させる。 (3)授業研究スペシャルウィーク等を活用して、研究成果の発表機会をさらに増やし、授業研究を充実させる。	(1)新学習指導要領に対応した教育課程の編成が進められたか。 (2)①実施した企画に係る検証を行ったか。 ② TOEIC Bridge、勉強合宿、土曜講習などの参加者が増加したか。 (3)・全教員が「能動的生徒参加型授業」を20%取り入れ、授業研究に参加したか。 ・通常の授業を充実させ、授業の中にチャレンジできる場を多く作ることができたか。	(1)新教育課程の編成に向けて、検討を始めることができた。 (2)①「チャレンジする生徒の育成」企画の検証結果をまとめることができた。 ②TOEIC Bridge は1学年全員が受験したが、土曜講習は今年度実施できなかった。 (3)多くの教員が能動的生徒参加型授業を取り入れ、チャレンジできる場づくりに取り組めた。また、各教科「深い学び」を目指した授業案をつくり、11月の研究授業週間(スペシャルウィーク)で研究授業を行った。	(1)今年度末に公示される新学習指導要領を分析し、新教育課程の編成を引き続き進める。 (2)①一部の生徒に限られた企画が多いので、対象生徒の多い企画を検討し、定着を図る。 ②TOEIC Bridge だけでなく、他の検定試験にも積極的に挑戦させ、生徒の学習意欲を向上させる。 (3)教科単位で授業を作っていた教科もあったが、まだ個人的な研究にとどまっているか、各教科で更なる検証が必要である。	(保護者) ・能動的生徒参加型授業が多くなり、生徒の学習意欲が向上したことはよい成果であると感じる。 ・できるだけ多くの生徒が前向きに参加できるような取組に期待したい。 (学校評議員) ・新しい入試制度に向け、検定試験を新1年から積極的に受験させた方がよいのではないかと。	(1)新教育課程の編成に向け、検討に着手した。具体的には、情報科目の1学年実施の方向性を確認した。 (2)2カ年にわたる「チャレンジする生徒の育成」企画を検証し、TOEIC Bridgeや勉強合宿など、いくつかの企画は定着した。 (3)ほとんどの教員が能動的生徒参加型授業に取組、教科単位による授業研究も実施し、学校全体で授業改善に取り組むようになった。	(1)新学習指導要領を受けて、学校目標を見すえて、教育課程センターを中心に教育課程編成に本格的に取り組む。 (2)①できるだけ多くの生徒が関わられるようなチャレンジ企画を検討する。 ②検定試験を見直し、より時代のニーズにあったものを導入するとともに、受験したあとのフォローを実施する。 (3)主体的・対話的な深い学びを実践すべく能動的生徒参加型授業の質を高める研究を学校全体で行う。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	(1)生徒の自主的運営能力を向上させ、生徒主体の自立的活動を促し、自ら課題解決にチャレンジしていく積極的な態度の育成を図る。 (2)基本的生活習慣を確立し、自己管理能力、自律的行動規範の獲得を促し、モラルの向上やルール遵守の精神を養う。 (3)丁寧できめ細かな生徒支援体制を構築する。	(1)各種行事、部活動、委員会活動等の活性化を図り各種行事における生徒の自主的な活動を支援し、生徒の自立的活動力を育成する。 (2)学年を中心に組織的に生徒指導に取組、基本的生活習慣、身だしなみ、マナー・モラルについて粘り強い丁寧な指導を行う。 (3)生徒一人ひとりを大切にしたい支援を推進する。	(1)①文化祭その他の行事において生徒会本部および委員会、参加団体等の自主的運営能力の向上を図る。 ②体育祭における学年を超えた応援団活動を通して生徒の自主性、リーダーシップ、コミュニケーション能力を育成する。 ③各部部长に対してリーダー講習会を実施する。 ④ボランティア活動を紹介し奨励する。 (2)①遅刻、服装・頭髪の指導を充実させる。 ②バスや自転車乗車について公共心を育成する指導を行い、マナーの向上を図る。 (3)よりきめの細かい個別面談やSCとの面談、ケース会議等、生徒一人ひとりを大切にしたい支援体制を充実させ、教育相談体制づくりに努める。	(1)①②行事を通して生徒主体の行事運営ができたか。 ③効果的なリーダー研修会を実施できたか。 ④ボランティアへの参加者は増加したか。 (2)①遅刻、頭髪服装の指導を行い改善を図れたか。 ②公共心が育ち、乗車マナーの向上が見られたか。 (3)面談、SCの活用、ケース会議など効果的な支援を実施できたか。	(1)①5129名と過去最高の入場者数となった。霧高祭実行委員を中心に企画・運営を行う形が定着し、生徒会本部の関わり方も確立されつつある。 ②体育祭実行委員を中心に種目決めから当日の運営まで生徒が主体的に関わるシーンが多くなった。 ③本校職員の講演会に対してリーダー論とチームワークの講義を行った。県の安全対策支援事業のトレーナー派遣によるテーピング講習会を行った。 ④ボランティアの参加が減少傾向になった。 (2)①遅刻、頭髪服装の指導を行い、概ね基本的生活習慣への注意喚起は達成できた。 ②バスの乗車マナーに関する外部からの苦情が減った。 (3)三者面談を実施し、支援が必要な生徒には、ケース会議を実施できた。	(1)①②生徒が主体的に行事を企画・運営できるように指導を続けていく。 ③生徒の部活動への意識向上を図る企画を考える。今年も安全対策支援事業を継続することができ、今まで以上に活用頻度が高まってきている。怪我予防は継続課題である。 ④1年生と福祉委員会のボランティア参加が減っているため、1年生対象の福祉講演会を早めに行いPRを拡大することと福祉委員の選考のところでボランティア活動を義務付けたい。 (2)①今後も遅刻、頭髪服装の指導をよりきめ細かく行い、全ての生徒に基本的生活習慣の定着を促す。 ②バスの乗車マナーと自転車の乗車マナーについて、より一層の指導を行う。 (3)支援が必要な生徒の情報を、より一層細かく把握し学年職員を中心に共有し、必要な支援を行う。	(保護者) ・体育祭や文化祭を見ると、生徒が積極的に運営に関わり、質の高い内容になっていると感じられた。 ・リーダー講習会には、これまでリーダーになったことがなかったような生徒たちにも是非参加してもらいたい。 (学校評議員) ・学校行事や生徒会の取組など、一つ一つが着実にねらいを達成しているように感じている。学校行事によって、生徒たちが一つになるきっかけになるので、今後もこのような形で継続してほしい。	(1)①②霧高祭実行委員を中心に企画・運営する形が定着するなど、生徒主体の学校行事づくりが前進した。 ③効果的なリーダー研修会を実施するなど、生徒会役員や部活動のリーダー育成は進んだ。 ④ボランティア参加が減少し、福祉活動への意欲の増進が課題である。 (2)①遅刻指導や服装指導が効果を奏し、概ね基本的生活習慣の定着は図ることができた。 ②バスや自転車の乗車マナーの指導を重ねたため、近隣からの苦情は減少した。 (3)担任を中心に、三者面談等の個別面談をきめ細かく行ったことにより、多くの生徒の課題を浮き彫りにすることができ、早期対応につなげることができた。	(1)①②これまでの成果をふまえて、学校行事のよりいっそうの生徒主体の取組に向け、指導、支援を積み重ねる。 ③怪我予防等の指導を行うなど、安全対策支援事業を継続し、部活動への意識向上を図る。 ④1年生対象の福祉講演会の早期実施等を通じて、より多くの生徒が参加できるようなボランティア活動のあり方を探る。 (2)①よりきめ細かな遅刻指導、服装指導を実施し、生徒の基本的生活習慣の定着を図る。 ②バスの乗車マナーの指導、自転車の安全乗車指導を徹底し、事故の未然防止に取り組む。 (3)教育相談コーディネーターの活動やスクールカウンセラーの活用を通して、支援が必要な生徒の情報を把握し、学年職員を中心に共有し、必要な支援を迅速に行う。

3	進路指導・支援	<p>(1)自己発見の機会を与え、自己の将来にも向き合いながら自己実現を目指すキャリア教育の充実を図る。</p> <p>(2)進路希望の実現に向けて進路選択能力の涵養と学力向上を図る指導を充実させる。</p>	<p>(1)総合的な学習の時間のプログラムの検証し、効果的なキャリア教育の講座の研究を進め、実践する。</p> <p>(2)進路に係る様々な活動を通して、自己のキャリアを明確にデザインする力を育成する。</p>	<p>(1)発達段階に応じた現行の総合的な学習の時間のプログラムを見直し、学年の連携を図れる講座の研究および実践を進める。</p> <p>(2)様々な媒体を用いた情報収集、資料活用を促し、自己の能力を試す模試や資格・検定試験へのチャレンジを奨励する。</p>	<p>(1)本校のキャリア教育目標にのっとり、多様な興味・関心に対応するプログラムの研究・実践が進められたか。</p> <p>(2)生徒に様々な活動の機会が提供できたか。また、模試や検定試験などへの取組が増えたか。</p>	<p>(1)本校のキャリア教育目標にのっとり、多様な興味・関心に対応するプログラムを用意することで進路意識を高めることができた。学年の連携は図り切れていない。</p> <p>(2)①インターンシップへの参加は3年生を中心に堅調に増えている。</p> <p>②模擬試験への取組は昨年に比較して減少した。検定試験への取組は、昨年並みであった。</p>	<p>(1)新学習指導要領もふまえ、より深い学びや体験ができるプログラムの研究を進める。</p> <p>(2)①インターンシップ参加者は、ほとんどが女子であり、男子への働きかけをすることで参加者を増やし進路意識を高めたい。</p> <p>②AO、推薦希望者の増加が模試受験者数の減少の遠因でもあるが、一般受験希望でありながら模試を受験しない層に参加を呼びかけていく必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・インターンシップに参加することで、将来を考えるきっかけになるので今後も参加する生徒が増えることが望まれる。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・学習意欲の伸長が高い進路実現への意欲につながるために必要だと考える。</p>	<p>(1)総合的な学習の時間では、本校のキャリア教育目標にのっとり、多様な興味・関心に対応するプログラムを展開できたが、学年間の連携は不十分であった。</p> <p>(2)①インターンシップへの参加は女子を中心に増えてきた。</p> <p>②AO、推薦入学希望者が増加した影響により、模擬試験の受験者が昨年に比較して減少した。</p>	<p>(1)新学習指導要領の趣旨をふまえて、総合的な学習の時間の内容を検討する。特に、学年間の連携を促し、一貫性のある企画づくりを進める。</p> <p>(2)①インターンシップへの活動の意義やねらいをPRしながら、参加者を増やす。</p> <p>②一般受験希望者を中心に積極的に模擬試験を受験するよう促す。</p>
4	地域等との協働	<p>(1)地域社会の理解を得るため、本校の教育活動に係る積極的な情報発信を行う。</p> <p>(2)地域貢献・連携・協働を通し社会参画意識の向上を図る。</p>	<p>(1)本校の教育活動の取組みを効果的に伝える広報活動を実施する。</p> <p>(2)地域との連携を図り生徒の社会参画の機会を作る。</p>	<p>(1)①学校案内の見直し、改良、週1回定期的にHPの更新を行う。</p> <p>②校内外、学校説明会の内容の精選、視覚的に分かりやすいパネルの作成を行う。中学生を対象にした高校体験行事を実施する。</p> <p>(2)地域と連携した行事の企画運営を行う。生徒会本部の他校交流・小学校での防犯教室・地域イベントへの部活動の参加・文化祭時の地域交流ブースなど</p>	<p>(1)①学校案内の改良、HPの迅速な更新ができたか。</p> <p>②校内外、学校説明会において中学生、保護者に有益なレスポンスを行えたか。中学生対象の体験行事を実施したか。</p> <p>(2)・地域との連携事業を実施したか。</p> <p>・生徒が地域貢献、社会参画を意識できた体験ができたか。</p>	<p>(1)①学校案内の裏表紙に学校説明会、公開行事、学校見学の欄を大きく設けた。「チャレンジする生徒の育成」に向けたランドデザインを視覚的に分かり易く、図にまとめた。HPの更新に努めたが、毎週行うまでには至らなかった。</p> <p>②各説明会に使用することのできるパネルを作成した。部活動体験を学校説明会と同時にすることにより、参加率を向上させることができた。</p> <p>(2)・部活動単位で地域の行事に参加した。星槎学園と生徒会の交流を行い、私立との様々な違いを感じた。</p> <p>・今年も小学校での防犯教室は盛況であった。</p> <p>・行事を通し生徒の地域貢献、社会参画の意識を促した。</p>	<p>(1)①学校案内に入試に係る情報がなく質問を受けることがあり、来年度どのように追加するか検討する。HPの更新内容情報を把握するため、きめこまかい職員へのアナウンスを徹底する。</p> <p>②学校説明会の材料は整いつつある反面、生徒の活躍の場を広げることに課題を感じた。霧コンシェルジュへの参加を積極的に行い、学校説明会で生徒が主体的に行動できる環境、指導を進める。</p> <p>(2)・既存の行事の充実を図る。</p> <p>・生徒が地域貢献、社会参画の意識をもてる仕組みづくりをする。来年度も生徒会本部が地域や他校と交流する場を多く設けていきたい。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・生徒会やボランティア委員会など一部の生徒だけでなく、これからもできるだけ多くの生徒が地域に積極的に関わってほしい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・学校説明会では、霧が丘のよいところをさらにPRして、地域の中学生にわかりやすい説明を生徒自らが行ってほしい。</p> <p>・地域の大学やコミュニティと双方向的に関わりながら、学校の中だけでは学べない事柄に触れる機会を与えてほしい。</p>	<p>(1)①学校案内の構成を見直し、中学生にとって、見やすくわかりやすいものを追求したが、入試に関する情報が不足するなど、いっそうの検討の必要性が指摘された。</p> <p>②学校説明会と部活動体験の日程の調整により、参加率向上につなげた。一方で、生徒自身による学校説明会への参画が欠けており、運営面に改善の余地を残している。</p> <p>(2)部活動単位で、地域の行事に参加したり、小学校での防災教室に参加したりして、地域住民や近隣の他校生徒との交流を深めた。</p>	<p>(1)①中学生やその保護者のニーズをふまえて、学校案内の内容の充実を図る。また、各部署に関する情報が不足するなど、いっそうの地域住民の参加を促していく。また、コミュニティ・スクールの実践に向けて、生徒会を中心に、できるだけ多くの生徒による地域交流活動を開拓し、促進する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>(1)事故・不祥事防止に努め、安全安心な信頼される学校づくりを進める。</p> <p>(2)防災教育・防災訓練を通じて、教職員や生徒の防災意識を高めながら、学校全体で組織的・計画的に災害対策対応力の強化を図る。</p> <p>(3)校内美化、環境整備を進める。</p>	<p>(1)職員が一丸となり、事故・不祥事防止の研修に取組、信頼される学校づくりへの意識を高める。</p> <p>(2)防災教育・防災訓練を通じて、教職員や生徒の防災意識を高める。地域と連携して組織的・計画的に災害対策対応力の強化を図る。</p> <p>(3)校内美化に取組み教育環境を向上させる。</p>	<p>(1)各グループがテーマを定め、課題解決に向けた具体的な研修会を設定する。特に、入学者選抜、個人情報等の管理に係る事故防止について重点的に取り組む。</p> <p>(2)①防災マニュアルの周知徹底を図る職員研修を実施する。</p> <p>②生徒対象のDIG研修を実施し、防災・安全意識を高める。</p> <p>③地域の災害対策本部と連絡協議を行う。</p> <p>(3)①学期に1回の大掃除のほかに月1回の中掃除を行う。</p> <p>②美化委員会による啓発活動を行う。</p>	<p>(1)具体的で効果的な事故・不祥事防止の研修会を実施したか。</p> <p>(2)①防災マニュアルの周知の徹底を図る職員研修を行ったか。</p> <p>②生徒対象のDIG研修を実施したか。</p> <p>③地域の災害対策本部と連絡協議を行ったか。</p> <p>(3)校内美化、環境整備は進んだか。</p>	<p>(1)全8回にわたり、10項目について各グループ主導で事故防止会議を開催し、一斉点検チェックプログラムを含め職員の意識啓発を図った。</p> <p>(2)①防災マニュアルの作成・改定を行い、「教職員必携」について周知した。全校生徒対象に簡易DIG研修を実施し徒歩帰宅経路の危険な場所・避難場所等の知識を深めた。</p> <p>②シェイクアウトを含む防災訓練、災害時帰宅経路の作成・防災講話の防災教育を行った。</p> <p>③地域の災害対策本部と連絡協議を行うことはできなかった。</p> <p>(3)月1回全校で中掃除を継続して実施し、美化意識を高めた。啓発活動については十分ではなかった。</p>	<p>(1)引き続き、事故防止会議をグループ主導で開催するとともに、具体的なヒヤリハット事例を紹介するなど内容充実に努める。</p> <p>(2)①防災マニュアルの必要な内容を掲示し、災害時にも対応がすぐに見えるように工夫をする。</p> <p>②全校生徒対象の簡易DIG研修・喫食訓練などの防災教育を継続する。防災訓練を繰り返すことにより、防災意識を高め、自主的な活動を育む。</p> <p>③地域の災害対策本部と連絡協議を行うこと目指す。</p> <p>(3)校内美化、環境整備の取組を継続していく。また、生徒の自主的な活動を促し、美化意識を高める。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・防災意識を高めることは、今の時代に特に求められているので日頃から防災教育に取り組んでほしい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・教育に関わる様々な事件を新聞等で目にするのが、重い責任を抱えた仕事なので、今後も研修に努めて、事故・不祥事防止に取り組んでほしい。</p>	<p>(1)事故防止会議を定期的に積み重ねることにより、事故・不祥事防止への職員の意識を高め、未然防止につなげることができた。</p> <p>(2)①防災マニュアルの見直しを進め、万一の時に活用できる内容となった。</p> <p>②全校生徒を対象に実施した簡易DIG研修は生徒全員の防災意識を高めた。</p> <p>③地域の災害対策本部との連絡協議はできなかった。</p> <p>(3)月1回の中掃除により、生徒の美化意識を高めたが、よりいっそうの啓発活動には不十分であった。</p>	<p>(1)企画会議や各グループによる職員主体でヒヤリハットを含めたより具体的な内容を盛り込んだ事故防止会議を積み重ね、事故・不祥事防止に関する意識の向上に努める。</p> <p>(2)①実用性と簡便性を重視した防災マニュアルのいっそうの内容の充実を図る。</p> <p>②全校生徒による簡易DIG研修を継続するとともに、喫食訓練などを通して生徒の防災意識のよりいっそうの向上を図る。</p> <p>(3)美化委員会を中心に、校内美化、環境整備のあり方を生徒が主体的に考えていく取組を企画し、実践を支援する。</p>